

Changes of histidine-rich glycoprotein levels in critically ill septic patients

アユ ナビラ クスマ プラダナ

<https://hdl.handle.net/2324/7329431>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International



氏 名： AYU NABILA KUSUMA PRADANA

論文名： Changes of histidine-rich glycoprotein levels in critically ill septic patients

(重篤な敗血症患者におけるhistidine-rich glycoproteinの血中濃度変化の意義)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

要約

背景：ヒスチジンリッチ糖タンパク（HRG）は、敗血症患者においてその予後と関係があるといわれているが、敗血症性ショック、播種性血管内凝固症候群（DIC）、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）といった敗血症の重症病態との関連性は明確ではない。本研究では、血中HRG濃度とこれらの重篤な病態との関連性を調査した。

方法：九州大学病院のICU入院後1、3、5、7日目に、53人の重症な敗血症患者から血液サンプルを採取し、臨床データおよび検査データを検討し、ICU入院後28日の患者の生存率との関連について評価した。

結果：敗血症性ショックおよびDICの患者では3、5、7日目に血清HRG濃度が大幅に低下したが、ARDSの患者では低下は認めなかった。また、1日目の血清HRGレベルは28日生存率とは関連していなかった。非生存患者では、特にICU入院後3、5、7日目にHRGレベルが有意に低下していた。一方で生存者のHRGレベルは低下することなく安定していた。特に5日目と7日目のHRGの低下は、死亡率と関連していた。5日目の、カットオフ値 25.5 $\mu\text{g/mL}$ でのHRGレベルの低下は感度 0.77、特異度 0.75を示し、生存率の低下と関係していた。（ログ・ランク検定、 $P < 0.05$ ）

結論：本研究によりHRGによる重症敗血症患者の治療介入の可能性があることが示唆された。敗血症治療におけるHRGの治療可能性を探るためには、さらなる研究が必要である。